

清武町文化財調査報告書 第6集

NUMERIKAWA  
滑川第1・第2遺跡-1-

滑川第3遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査概要報告書

1998

清武町教育委員会

滑川城 3 道城 S C - 9



## 序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全事業に伴い、平成9年度事業地で実施した滑川第1・第2・第3遺跡の発掘調査概要報告書です。

調査の結果、旧石器時代から中世まで幅広い時代の遺構や遺物が検出されました。特に縄文時代早期におきましては集石遺構や陥し穴状遺構をはじめとして、多種多様の興味深い資料を得ることができました。

これらの成果が学校教育、社会教育の資料として、また今後の考古学研究における学術資料として広く活用され、埋蔵文化財の保護への理解につながれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成10年3月

清武町教育委員会

教育長 湯 地 敏 郎

## 例　　言

1. 本書は、県営農地保全事業（船引地区）に伴う、滑川第1・第2・第3遺跡の発掘調査概要報告書である。

2. 滑川第1・第2遺跡の概要報告は、平成9年調査区域について行っている。

3. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体　　清武町教育委員会

事務局

教育長　湯地敏郎

教育次長　谷口忠誓

社会教育課長　戸高輝利

同課長補佐兼文化係長　落合兼雄

社会教育課主任　川越健

調査員

社会教育課主任　伊東但

社会教育課主事　井田篤

4. 遺物、図面の整理は、清武町文化財管理事務所において、  
が行った。

5. 描図の実測、拓本、トレースは伊東、井田、政野が行った。

6. 本書に使用した写真は、伊東、井田が撮影し、空中写真については㈱スカイサーベイに委託した。

7. 本書に使用した記号は次のとおりである。S I : 集石遺構 S C : 土塙  
尚、遺構番号は各遺跡ごとにつけている。

8. 本書の編集・執筆は井田が行った。

## 目 次

|              |    |
|--------------|----|
| 第1章 はじめに     | 1  |
| 第1節 調査にいたる経緯 | 1  |
| 第2節 遺跡の位置と環境 | 1  |
| 第3節 調査の概要    | 1  |
| 第2章 滑川第1遺跡   | 4  |
| 第1節 土 坡      | 4  |
| 第2節 集石遺構     | 4  |
| 第3章 滑川第2遺跡   | 6  |
| 第1節 土 坡      | 6  |
| 第2節 旧石器時代の礫群 | 6  |
| 第4章 滑川第3遺跡   | 7  |
| 第1節 集石遺構     | 7  |
| 第2節 陥し穴遺構    | 8  |
| 第3節 土 坡      | 8  |
| 第5章 まとめ      | 10 |
| 報告書抄録        | 22 |

## 挿図目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 第1図 基本土層図 (1/30)             | 1  |
| 第2図 位置図 (1/50000)            | 2  |
| 第3図 調査区域図 (1/5000)           | 3  |
| 第4図 滑川第1遺跡S I - 12実測図 (1/20) | 4  |
| 第5図 滑川第1遺跡遺構配置図 (1/700)      | 5  |
| 第6図 滑川第2遺跡遺構配置図 (1/500)      | 6  |
| 第7図 滑川第3遺跡S I - 6実測図 (1/20)  | 7  |
| 第8図 滑川第3遺跡SC - 9実測図 (1/30)   | 8  |
| 第9図 滑川第3遺跡遺構配置図 (1/700)      | 9  |
| 第10図 滑川第1遺跡出土遺物実測図 (1/2)     | 11 |
| 第11図 滑川第2遺跡出土遺物実測図 (1/2)     | 12 |
| 第12図 滑川第3遺跡出土遺物実測図 (1/2)     | 13 |

## 図版目次

|                    |    |
|--------------------|----|
| 図版1 滑川第1遺跡全景       | 14 |
| 図版2 滑川第2遺跡全景       | 14 |
| 図版3 滑川第3遺跡全景       | 15 |
| 図版4 滑川第1遺跡SC - 3   | 15 |
| 図版5 滑川第1遺跡S I - 12 | 16 |
| 図版6 滑川第2遺跡旧石器時代の礫群 | 16 |
| 図版7 滑川第2遺跡SC - 1   | 17 |
| 図版8 滑川第3遺跡S I - 6  | 17 |
| 図版9 滑川第3遺跡SC - 4   | 18 |
| 図版10 滑川第3遺跡SC - 3  | 18 |
| 図版11 滑川第1遺跡出土遺物    | 19 |
| 図版12 滑川第2遺跡出土遺物    | 20 |
| 図版13 滑川第3遺跡出土遺物    | 21 |

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

平成7年度より行われている清武町船引地区の県営農地保全事業に伴い、事業区の一部が滑川第1・第2・第3遺跡に含まれることが確認された。遺跡の取り扱いについて協議したところ、耕作土の確保等の事業設計上の理由により遺跡群のほぼ全域が削平されることとなつたため、影響を受ける事業区について発掘調査を行い記録保存する事となった。

調査は、平成9年5月6日から平成10年3月31までの期間で、宮崎県中部農林振興局の委託を受け、清武町教育委員会が実施した。

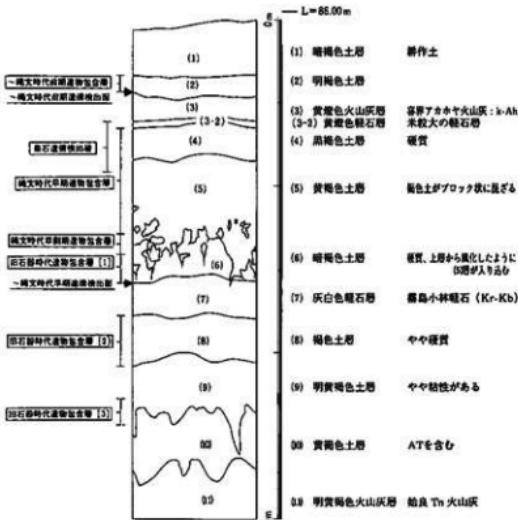
## 第2節 遺跡の位置と環境

滑川第1・第2・第3遺跡は清武町の北西部船引地区に所在し、町内を流れる滑川の左岸、標高約90mのシラス台地上に位置する。

近辺には、上ノ原第1・第2・第3・第4遺跡や白ヶ野第2・第3遺跡（宮崎県教育委員会主体による発掘調査終了）、又白ヶ野第1・第4遺跡（清武町教育委員会による発掘調査終了）や山田遺跡等が所在する。

## 第3節 調査の概要

調査は重機による表土の剥ぎ取りから行ったが、滑川第1・第2・第3遺跡では傾斜地を削平して耕作が行われていたため、調査区は各層が複雑に露出している状態であった。そこでまず2層が確認された範囲の調査を行い（3層上面までの掘り下げ、3層上面での遺構の検出・調査）、調査終了後3層を重機により除去、その後4層から7層までは遺物の取り上げ作業と遺構の検出・調査を行いながら掘り下げ作業を進めていった。7層までの調査が終了した範囲においては部分的なトレンチ調査を行ったが、台地の先端部で旧石器時代の遺物が出土したため調査区を拡大して旧石器時代の調査を行った。



第1図 基本土層図 (1/30)

第2図 位 置 図 (1/50000)



第3図 調査区域図(1/5000)

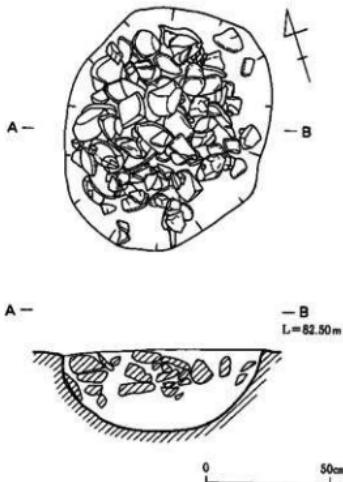


## 第2章 滑川第1遺跡

### 第1節 土 坡

3層（アカホヤ層）上面において遺構の検出を行ったところ、端部にピットを有し埋土中に高原スコリアを含む土坡が16基確認された。このタイプの土坡は白ヶ野第1遺跡でも総数107基が検出されており、依然用途については不明である。

又、7層（霧島小林輕石層）上面では6基の土坡が検出されている。埋土は硬質の黒色土で、縄文時代早期の遺構ではないかと思われるが、遺物を伴っていないこともあり明確な構築時期や用途等は不明である。



第4図 滑川第1遺跡S I - 12実測図 (1/20)

4層、5層からは縄文時代早期のものと思われる集石遺構が18基検出された。掘込みを持つタイプが11基、持たないタイプが7基でいずれも配石は確認されず遺物も伴わない。そのなかで注目されるのは、18基のうち唯一掘込み面が完全な形で検出されたS I - 12（第4図）である。この集石遺構には約50kgの碟が使用され、碟全体の約40%は500g前後の円碟であった（遺構上部は円碟が多く遺構下部は細かい角碟が多い）。埋土は炭化物を含む黒色土であったが、最下部の碟から掘込みの床面にかけての埋土はより多くの炭化物を含み粘り気があるものであった。

尚この集石遺構については、宮崎国際大学の谷正和助教授により集石遺構付近（約3m×約3m）の微細遺物の検出作業が行われた。



第5図 滑川第1遺跡遺構配置図 (1/700)

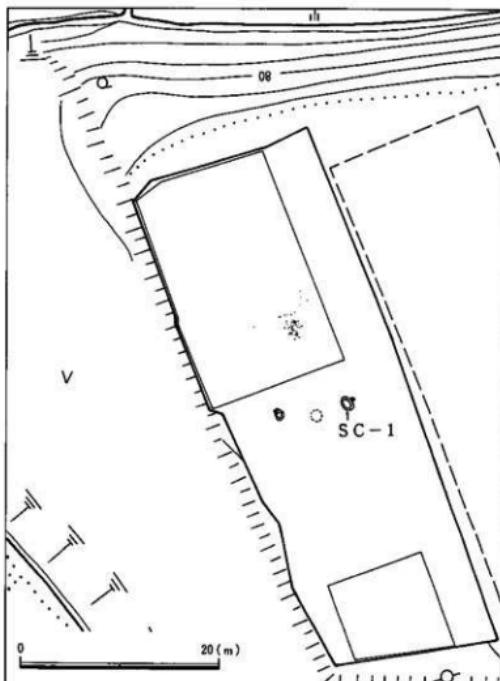
## 第3章 滑川第2遺跡

### 第1節 土 坡

6層上面で塞ノ神式土器片を伴う土坡が3基検出された。最大のSC-1(図版6)は長径約1.6m、短径約1.2m、検出面から下場までの深さが約0.2mの不整梢円形で、埋土中からは約2個体分の土器片が出土した。掘込み面については埋土の状況から見て5層中にあると推測される。

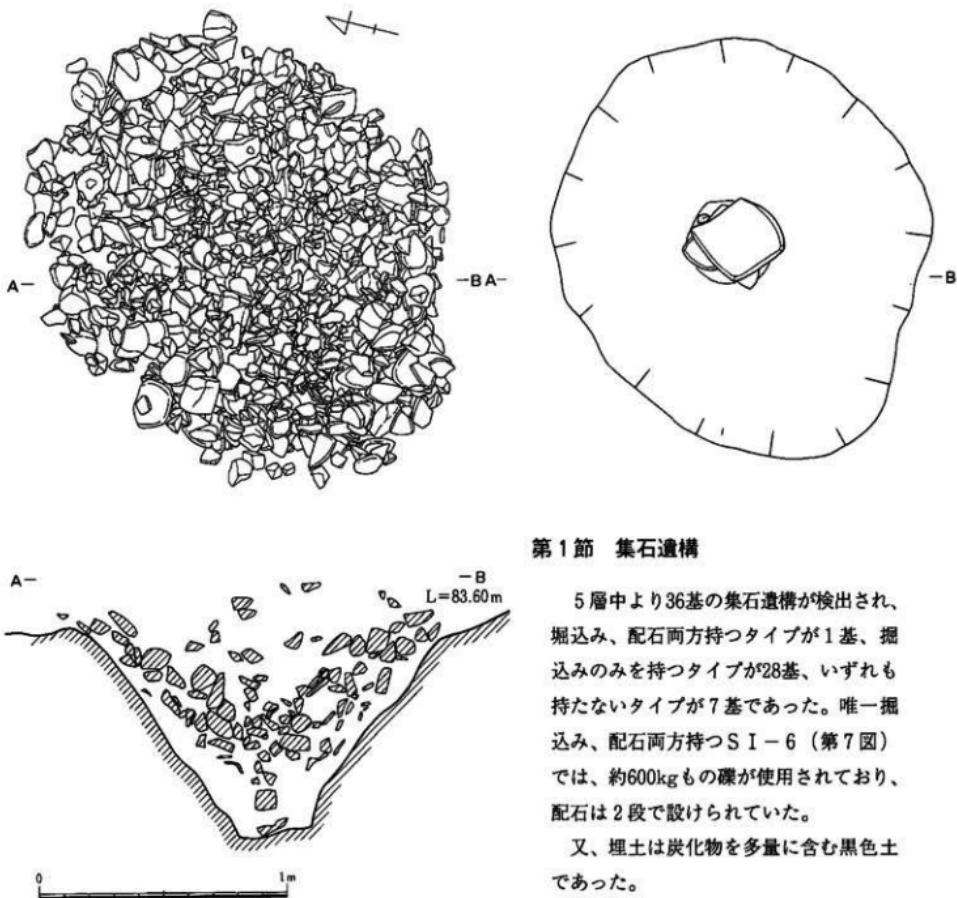
### 第2節 旧石器時代の礫群

8層露出部の旧石器時代の調査区において、赤変した礫群(図版7)が検出された(第1図基本土層図の旧石器遺物包含層[3])。礫は10cm~20cm程の円礫もしくは亜円礫が多く、それらが約4m×約2mの範囲に散在していたが、その中でも5個~15個程の礫が集中し重なり合う場所が3ヶ所確認された。礫群の周囲では、礫群が検出された層とほぼ同じ層で黒曜石のチップやナイフ状剥片等が数点出土している。



第6図 滑川第2遺跡遺構配置図(1/500)

## 第4章 滑川第3遺跡

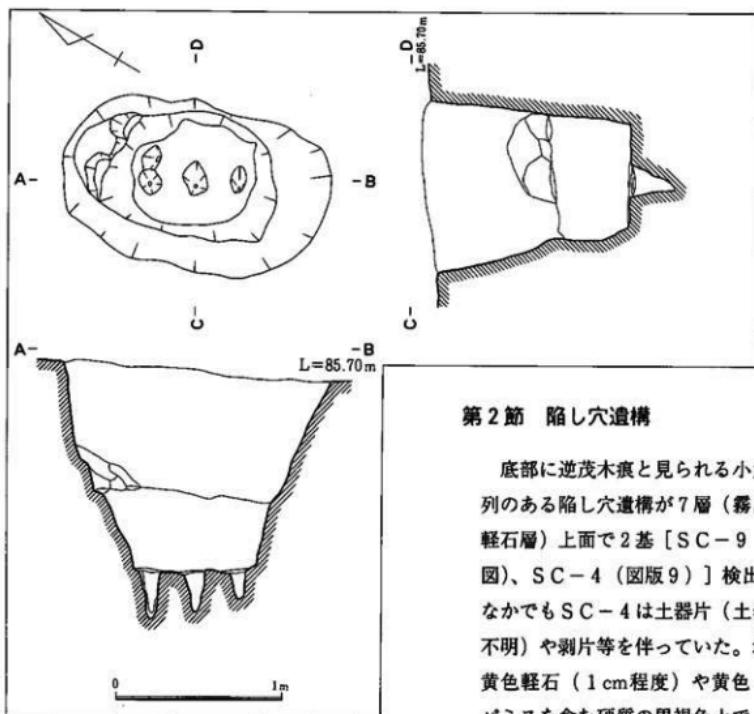


### 第1節 集石遺構

5層中より36基の集石遺構が検出され、堀込み、配石両方持つタイプが1基、掘込みのみを持つタイプが28基、いずれも持たないタイプが7基であった。唯一掘込み、配石両方持つS I - 6（第7図）では、約600kgもの礫が使用されており、配石は2段で設けられていた。

又、埋土は炭化物を多量に含む黒色土であった。

第7図 滑川第3遺跡 S I - 6 実測図 (1/20)



第8図 滑川第3遺跡SC-9実測図(1/30)

## 第2節 陷し穴遺構

底部に逆茂木痕と見られる小穴の配列のある陷し穴遺構が7層（霧島小林軽石層）上面で2基【SC-9（第8図）、SC-4（図版9）】検出され、なかでもSC-4は土器片（土器形式不明）や剥片等を伴っていた。埋土は黄色軽石（1cm程度）や黄色・白色バミスを含む硬質の黒褐色土で、現在構築時期を解明するため埋土と土器片によりテフラ分析、C-14分析等の自然科学分析を（株）古環境研究所に委託して行っている。

## 第3節 土 坡

5層中より桑の丸式土器片を伴う土坡が1基【SC-3】（図版10）検出され、土坡の規模は長径約1.1m、短径約0.6m、検出面から下場までの深さ約0.25mの不整楕円形であった。埋土中には多量の赤変した砾が含まれていた。尚、土坡の用途については現在のところ不明である。



第9図 滑川第3遺跡遺構配置図 (1/700)

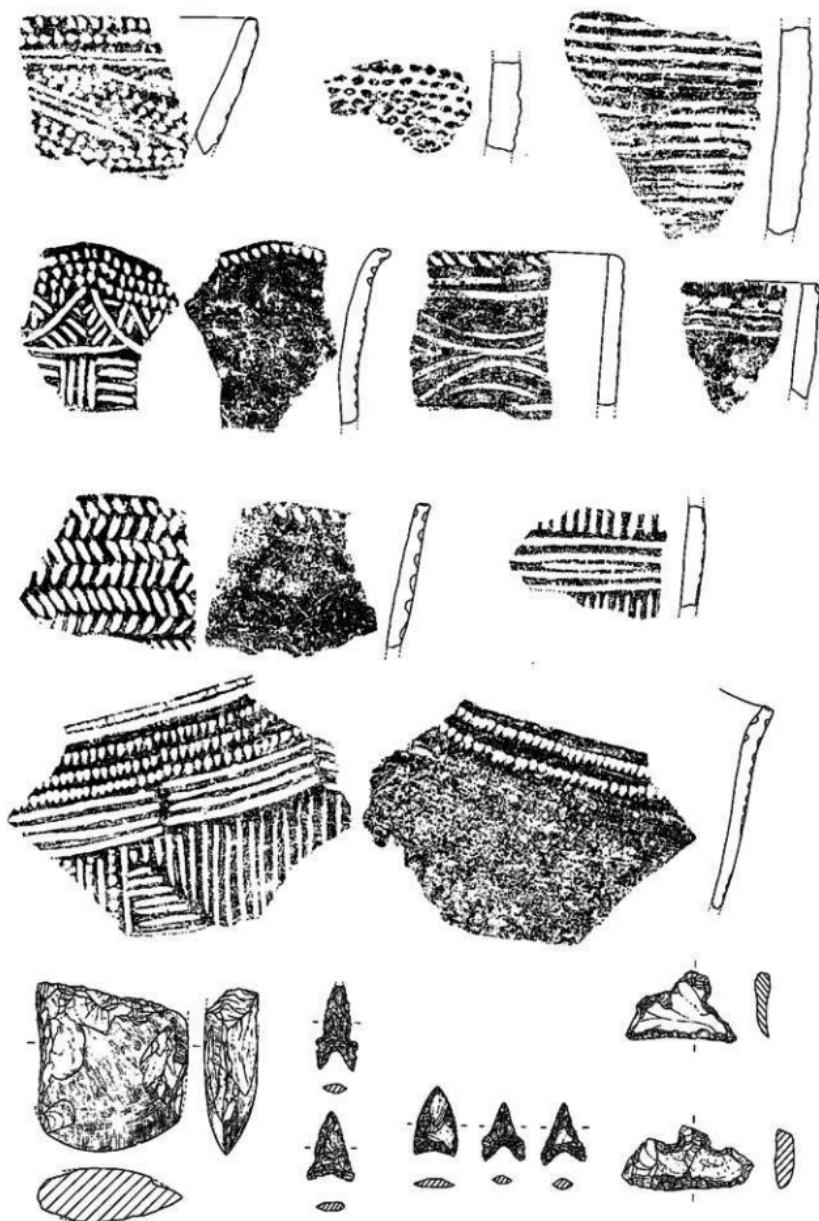
## 第5章 まとめ

滑川第1遺跡では、端部にピットを有する土塙（埋土に高原スコリアを含む）が14基、集石遺構が18基検出され、又縄文時代前期や縄文時代早期の遺物などが出土したが、本年度調査区においては調査区の約半分が5層まで削平されており、遺跡の残存状況はあまり芳しいものではなかった。本遺跡については平成10年度も隣接地の調査が予定されており、予定調査区は良好な残存状況が予想される。

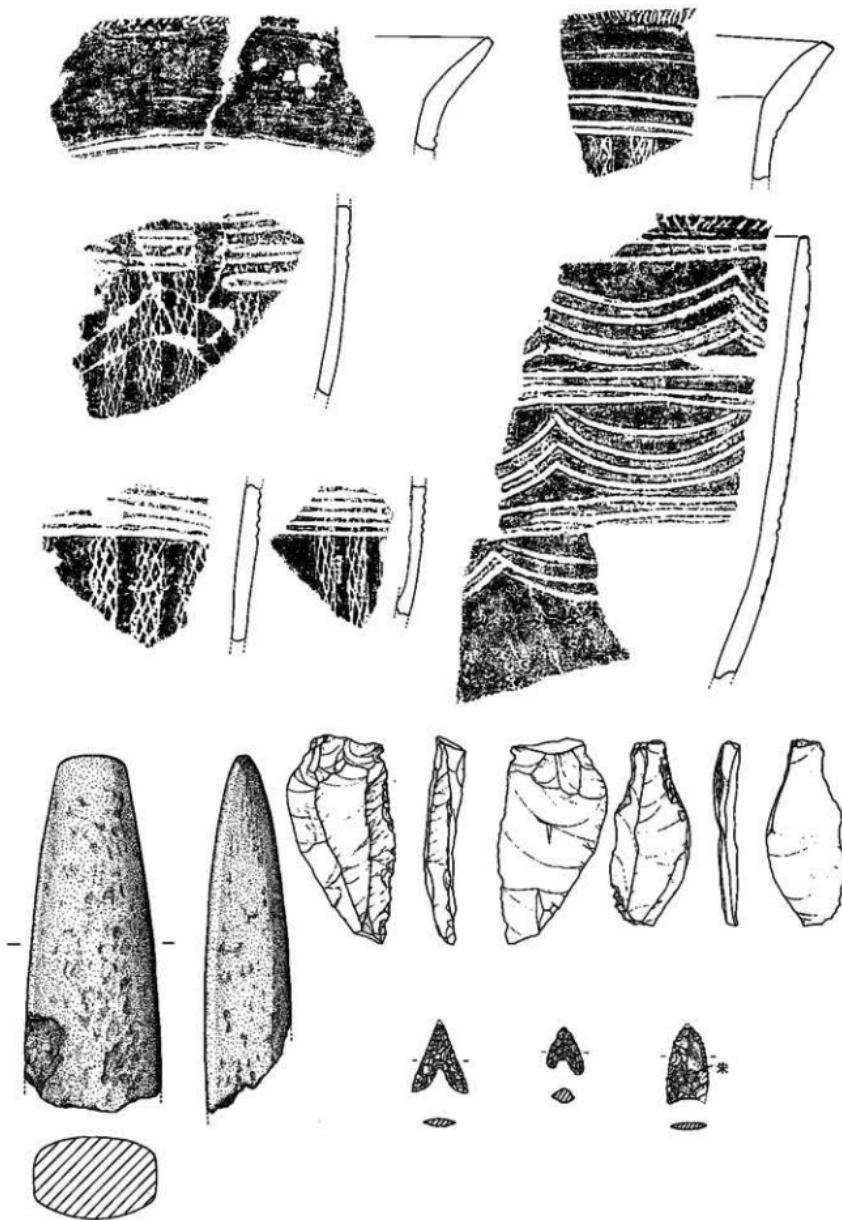
滑川第2遺跡では、本年度調査区が台地の先端部に位置し、広範囲で7層（霧島小林軽石層）以下の層が露出していたため、慎重な旧石器時代の調査を行った。結果旧石器時代の礫群が検出され、現在熱ルミネッセンス法等の自然科学分析を（株）古環境研究所に委託している。又、6層上面では塞ノ神式土器片を伴う土塙が3基検出されているが、塞ノ神式土器片を伴う遺構の検出例はきわめて希で縄文時代早期の学術研究において貴重な資料になろう。尚、本遺跡も滑川第1遺跡同様平成10年度に隣接地の調査が予定されている。

滑川第3遺跡では、掘込み・配石両方持つタイプ、掘込みのみを持つタイプ、どちらも持たないタイプの3種類の集石遺構が5層中のあまり高低差のない面で検出された。掘込みを持つタイプの集石遺構の埋土はほとんどが黒褐色もしくは黒色土で、炭化物を多量に含むものも数基あった。又、陥し穴遺構については、逆茂木が確認されている陥し穴遺構2基が検出されているが、その他にもその2基と似通った埋土の円形の土塙が8基（逆茂木は確認されていない）検出されている。そのなかの5基は逆茂木が確認されている2基と同じ台地の尾根上で検出され、間隔もほぼ一定なため、これらの土塙が陥し穴遺構である可能性が高いと考えられる。又、桑の丸式土器片を伴う土塙の用途については現在のところ不明だが、土塙に隣接する小型の集石遺構（S I-36）となんらかの関係があるのではないかと推測される。その他にも押型文土器片や赤変した礫を伴う土塙も検出されており、先述の桑の丸式土器片を伴う土塙も含めて、縄文時代早期の貴重な資料が数多く得られたといえる。

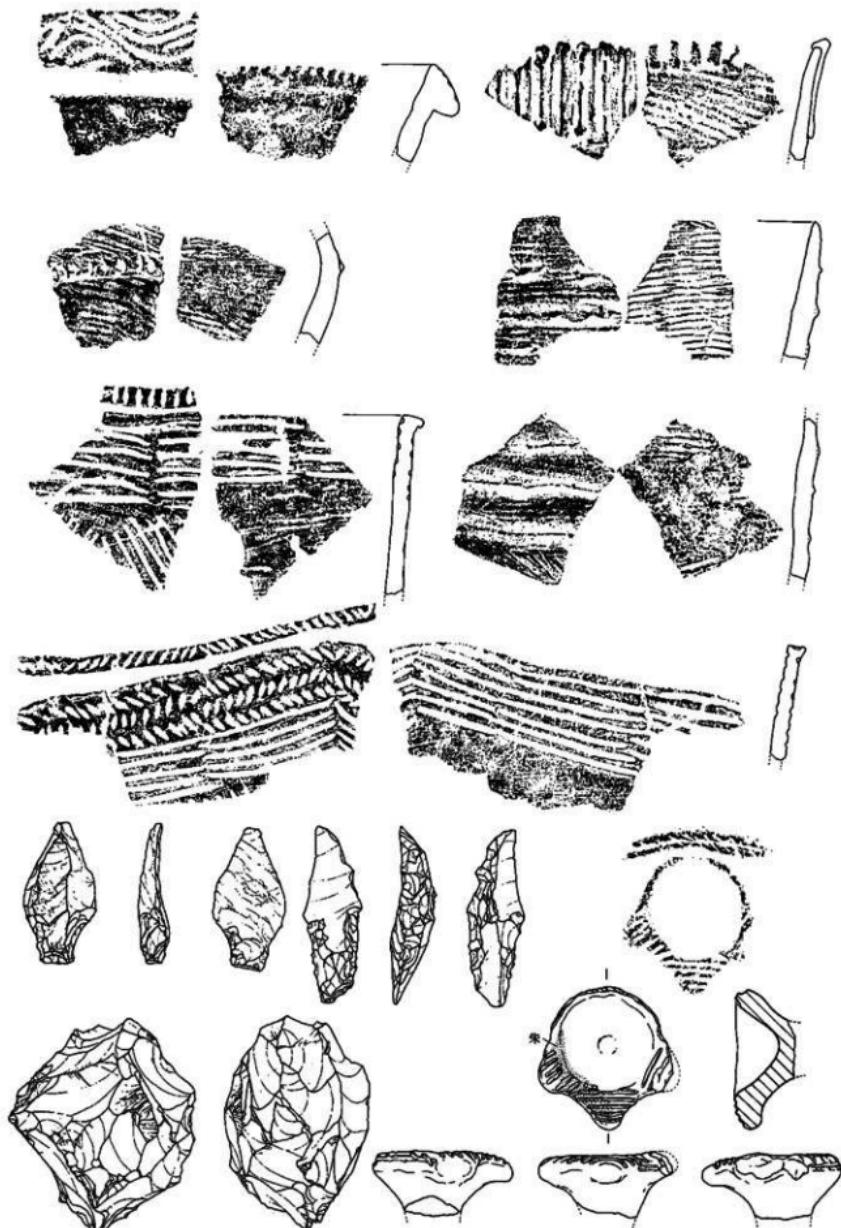
注目される出土遺物は、第1遺跡では滑石を含む曾畠式土器（～縄文時代前期遺物包含層）、第2遺跡ではナイフ状剥片（旧石器時代遺物包含層〔3〕）、第3遺跡では出土層位不明の土製品やナイフ・石核（旧石器時代遺物包含層〔3〕）等であるが、3遺跡を通じて言えることは縄文時代前期と縄文時代早期の遺物が多く出土したということである。又旧石器時代については霧島小林軽石層（7層）を挟んで上下2枚、その下層に1枚計3枚の遺物包含層が確認された。



第10図 滑川第1遺跡出土遺物実測図（1／2）



第11図 滑川第2遺跡出土遺物実測図（1／2）



第12図 滑川第3遺跡出土遺物実測図（1／2）



図版1 滑川第1遺跡全景



図版2 滑川第2遺跡全景



図版3 滑川第3遺跡全景



図版4 滑川第1遺跡SC-3



図版5 滑川第1遺跡S I-12



図版6 滑川第2遺跡旧石器時代の礫群



図版7 滑川第2遺跡SC-1



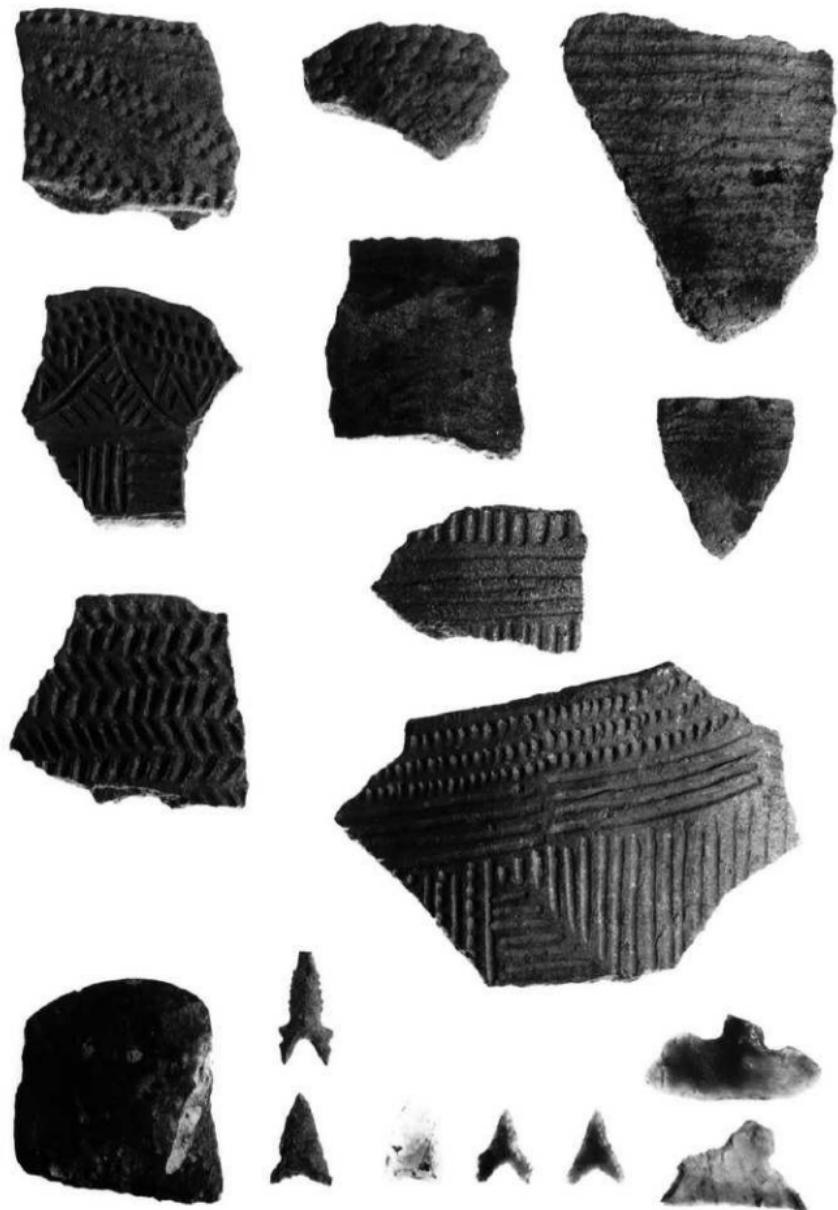
図版8 滑川第3遺跡SI-6



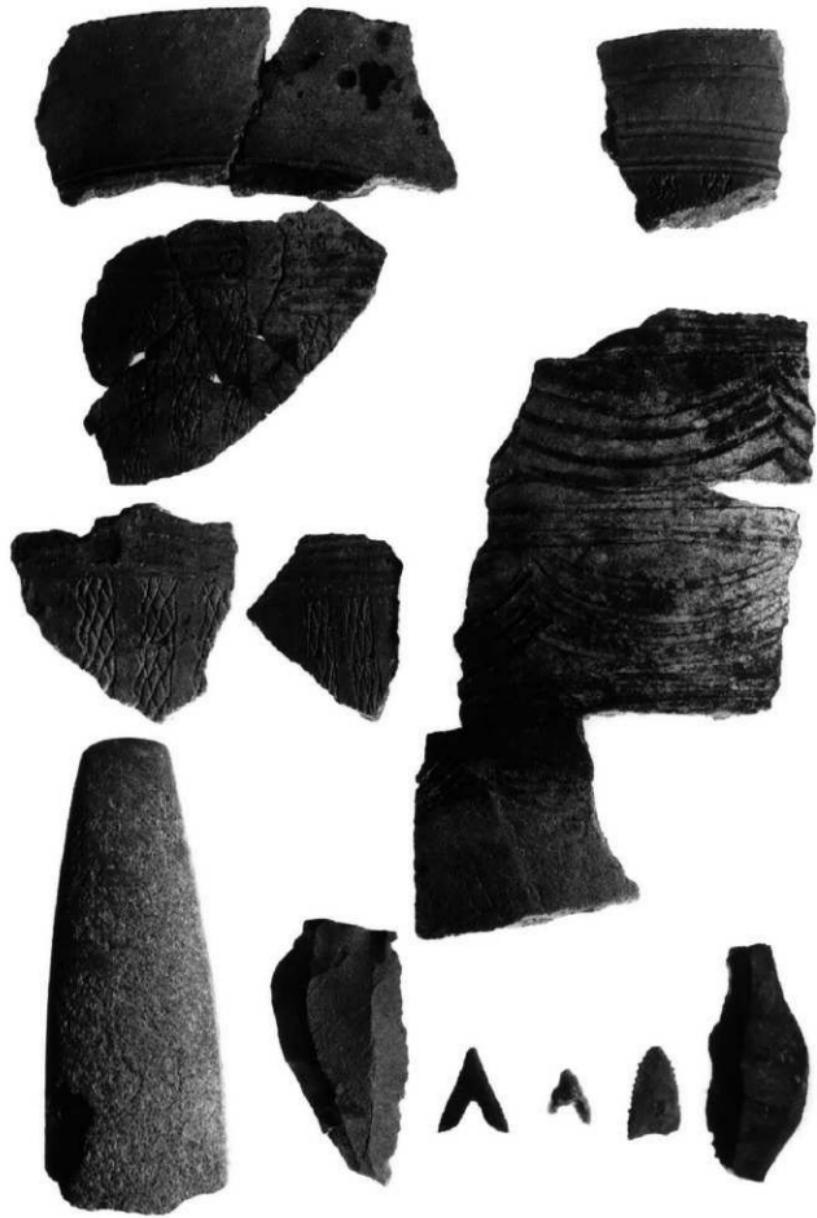
図版9 滑川第3遺跡SC-4



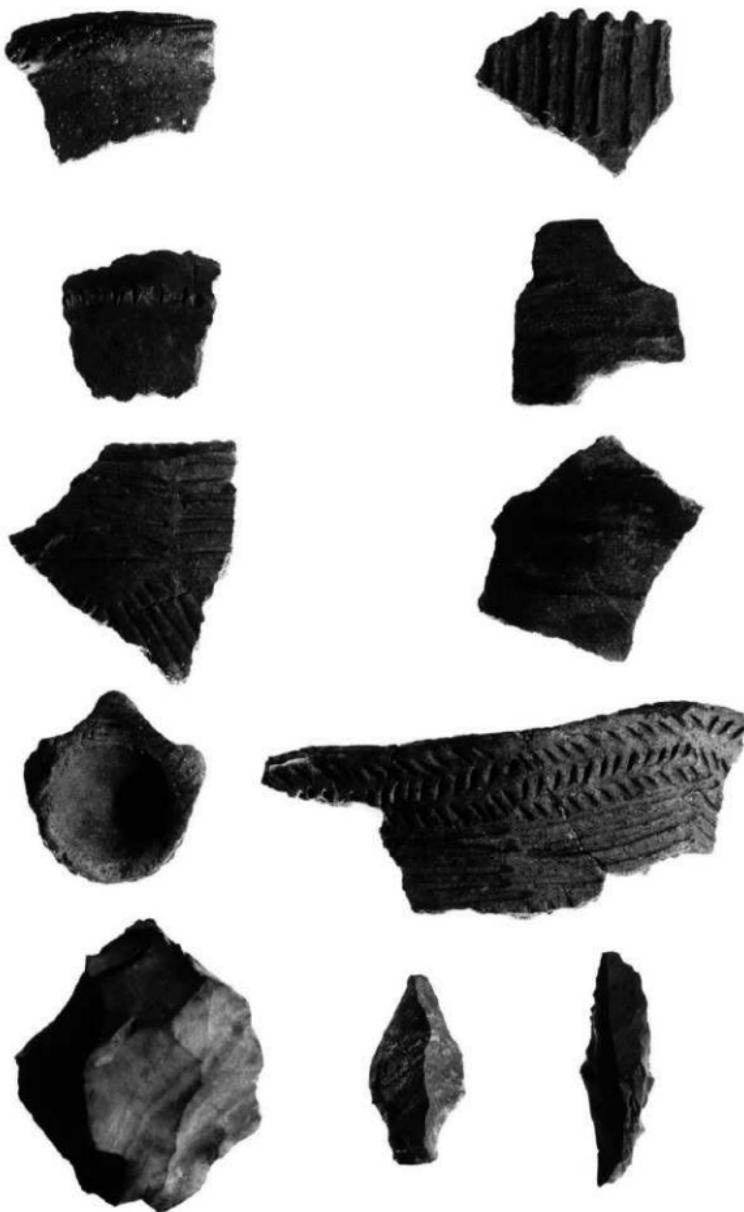
図版10 滑川第3遺跡SC-3



図版11 滑川第1遺跡出土遺物



図版12 滑川第2遺跡出土遺物



図版13 滑川第3遺跡出土遺物

| フリガナ                                                          | ヌメリカワダイイチ・ダイニ・ダイサンイセキ          |                 |            |                  |                       |      |
|---------------------------------------------------------------|--------------------------------|-----------------|------------|------------------|-----------------------|------|
| 書名                                                            | 滑川第1・第2・第3遺跡                   |                 |            |                  |                       |      |
| 副書名                                                           | 県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査概要報告書 |                 |            |                  |                       |      |
| 卷次                                                            | 第1集                            |                 |            |                  |                       |      |
| シリーズ名                                                         | 清武町文化財調査報告書                    |                 |            |                  |                       |      |
| シリーズ番号                                                        | 第6集                            |                 |            |                  |                       |      |
| 編集者名                                                          | 井田篤                            |                 |            |                  |                       |      |
| 発行機関                                                          | 清武町教育委員会                       |                 |            |                  |                       |      |
| 所在地                                                           | 宮崎県宮崎郡清武町大字船引204番地             |                 |            |                  |                       |      |
| 発行年月日                                                         | 1998年3月                        |                 |            |                  |                       |      |
| 所在遺跡名                                                         | 所在地                            | 市町村: 遺跡番号       | 北緯         | 東経               | 調査期間                  |      |
| 滑川第1                                                          | 清武町<br>大字船引<br>字滑川             | 清武町: 209<br>210 | 31° 52' 29 | 131° 22' 09      | 97, 5, 6 ~ 97, 10, 14 |      |
| 滑川第2                                                          |                                |                 | 31° 52' 28 | 131° 22' 13      | 97, 8, 1 ~ 98, 3, 31  |      |
| 滑川第3                                                          |                                |                 | 31° 52' 31 | 131° 22' 11      | 97, 8, 1 ~ 98, 3, 31  |      |
| 調査面積                                                          | 調査原因                           | 種別              | 主な時代       | 主な遺構             | 主な遺物                  | 特記事項 |
| 8320m <sup>2</sup><br>820m <sup>2</sup><br>6940m <sup>2</sup> | 農業関連                           | 集落              | 旧石器<br>縄文  | 土塙、集石遺構<br>陥し穴遺構 | 縄文式土器<br>石器           |      |

清武町文化財調査報告書 第8集

湯川第1・第2遺跡 - 1 -

湯川第3遺跡

発行年月 1998年3月

編集・発行 清武町教育委員会

印 刷 師 昭 和 印 刷

